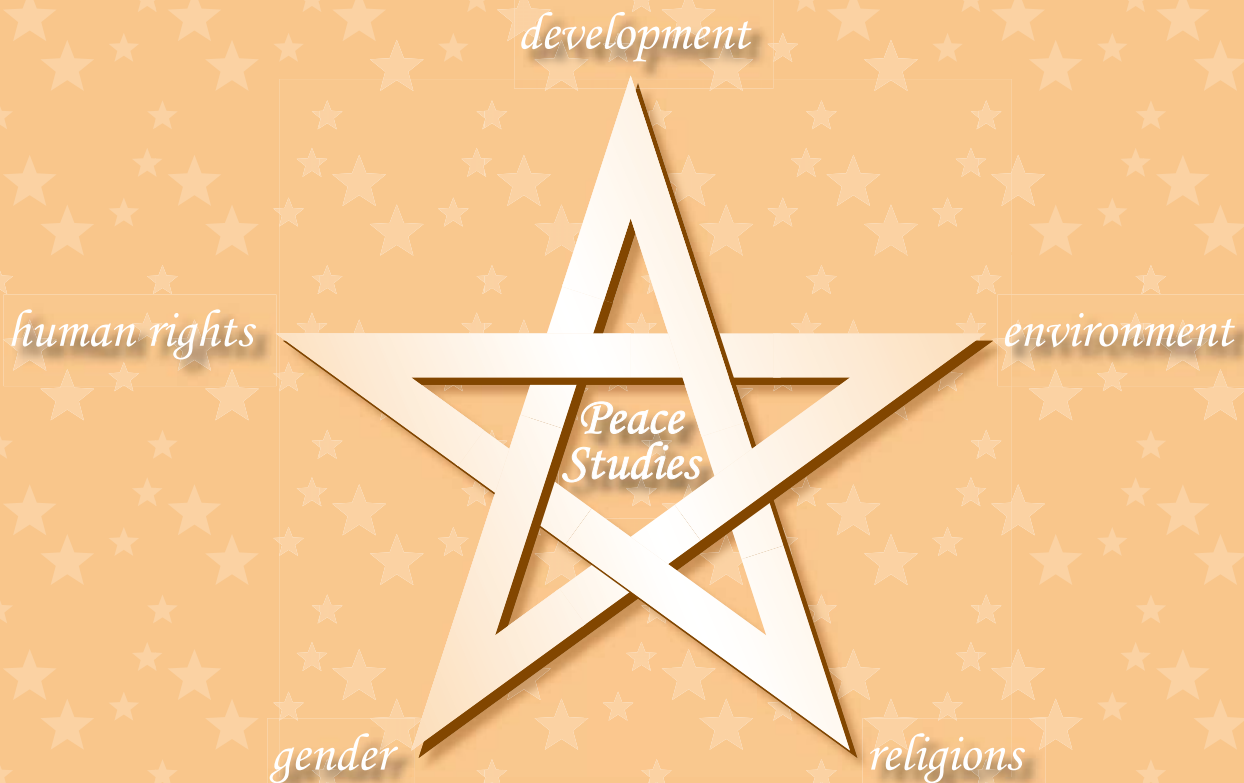


# 平和学を3Dに考える

開発、人権、環境、ジェンダー、宗教から立体的で総合的な平和像を探ってみよう!



## 恵泉女学園大学大学院主催 連続講演会と大学院説明会のお知らせ

日本初の「平和学研究科」を設置している本学大学院は、以下の二回の講演会を2010年12月と2011年1月にかけて都内で開催します。本学の平和学の特徴は、戦争や武力紛争といった直接的暴力に加えて、貧困・格差、人権・差別、ジェンダー、環境や宗教と言った構造的暴力に関して強い関心を寄せていること、そしてそれらの問題に実践的に関わる教員が多い点です。

なお当日は、会場で本学大学院の平和学研究科と人文学研究科や入試についての簡単な説明も行いますので、進学を考えている皆様にも良い機会となります。

入場無料ですが、資料の準備のため、裏面記載の申し込み先まで事前に参加をお申し込みください。もちろん申し込みなしでも、ご参加いただけます。

### 第1回

2010年12月17日(金) 18:30~20:30

早稲田奉仕園You & I ホール(新宿区西早稲田2-3-1)

### 「宗教の平和学」を求めて

講演：川島 堅二(本学平和学研究科教授)

### 第2回

2011年1月28日(金) 18:30~20:30

恵泉園芸センター(港区六本木6-5-18)

### 子育て支援に新たな地平を

~改めて「母性愛神話」からの解放とは~

講演：大日向 雅美(本学平和学研究科教授)

概要は裏面をご参照ください。

Keisen University Graduate School

# 恵泉女学園大学大学院主催 連続講演会と大学院説明会

## ■第1回

### 「宗教の平和学」を求めて

講演者：川島 堅二（恵泉女学園大学・大学院教授）

コメンテーター：

木村 利人（恵泉女学園大学学長）

大河内 秀人（寿光院住職・パレスチナ子どものキャンペーン理事）

宗教者が他の諸宗教に対して取り得る立場は、大きく分けて三つ、すなわち、他を一切認めない排他主義（原理主義）、他宗教にも真理契機は認めるが完全な救いは自分の宗教において啓示されているとする包括主義、そして、自分の宗教をも他と同じレベルにまで相対化する多元主義があると思います。私は大学教員になる前、10年ほどプロテスタントの牧師として働きましたが、その時はソフトな排他主義や包括主義の立場で自分の信仰を維持してきました。働き場を大学に移してから、オウム真理教、摂理のようないわゆる反社会的カルト集団や排他的原理主義的なキリスト教系諸団体の信者たちと対峙する場面を経験し、このような排他主義に将来はないこと、そして、包括主義もソフトな排他主義に他ならないことを確信するに至り、多元主義の立場へと導かれて行きました。

宗教多元主義が日本に紹介されて久しく、この方面での主要な業績はいくつも邦訳され、日本基督教学会でもシンポジウム等で議論が重ねられてきました。また、宗教間対話も世界宗教者平和会議などの主

## ●日時

2010年12月17日（金）

講演会 18:30～20:00

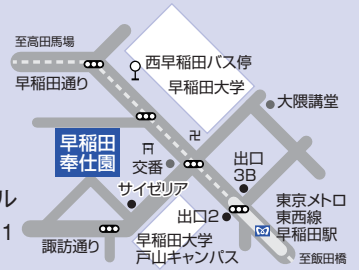
大学院説明会 20:05～20:30

## ●会場

早稲田奉仕園 You & I ホール

169-8616 新宿区西早稲田2-3-1

TEL：03-3205-5411



導で毎年のように会合が開かれています。しかし、これらは一部神学者や聖職者による研究や祭典にとどまっており、現場には浸透していない。むしろ、現場の教会には排他的原理主義的な立場が確実に浸食しているように思います。

以上のような状況を踏まえて、私が現在模索しているのが、実践的宗教多元主義の立場です。これを「宗教の平和学」の試みとして紹介してみたいと思います。

## 川島 堅二（かわしま・けんじ）

専門は宗教学。主要な著書・論文に『日本におけるドイツ ドイツ宣教会史125年』（共著）新教出版社2010年、「大学におけるカルト対策—現状と課題」『大学と学生』独立行政法人日本学生支援機構2010年9月号所収、「神学とキリスト教学—その今日的な可能性を問う—」（共著）キリスト新聞社2009年など。



## ■第2回

### 子育て支援に新たな地平を ～改めて「母性愛神話」からの解放とは～

講演者：大日向 雅美（恵泉女学園大学・大学院教授）

コメンテーター：

定松 文（恵泉女学園大学・大学院教授、国際社会学）

子育て支援が各党の政策課題の筆頭を飾るほど、子育て支援に熱い視線が注がれている昨今です。先般（2010年6月29日）内閣府少子化対策会議において、今後の子育て支援の基本政策として決定された「子ども・子育て新システム」には、社会全体で子どもの育ちと子育てを支える必要性が打ち出されています。

しかしながら、親の生活の実態を見つめてみれば、依然として子育ては「孤育て（孤独な子育て）」と言わざるを得ない現実があります。その一方で、昨今の親の言動の一部には子育て支援の意味を誤解したかのようなゆゆしい現象があることも、残念ながら指摘されているところです。こうした中、「子育ての第一義的責任は親や家庭にある。子育て支援がかえって親を甘やかすのではないか」等々、支援の意義を疑い、施策を後退させるかのような発言も浮上している昨今です。

子育て支援はどの方向をめざし、いかにすすめられるべきなのでしょう。

その鍵の一つは、従来から日本社会に根強く存在してきた母性愛神

## ●日時

2011年1月28日（金）

講演会 18:30～20:00

大学院説明会 20:05～20:30

## ●会場

恵泉園芸センター

106-0032 港区六本木6-5-18

TEL：03-3403-6441



話について、新たな観点から再検討することにあるのではないかと考えています。すなわち、育児は母親の本来的な役割だとする固定観念から、いかに、そして、なにを目指して解放されるべきなのか、そのために行政や企業、そして市民は何をなすべきかを考えてみたいと思います。

子育てや子育て支援のゆくえを見つめること、それは今の私たちの生活の実態をみつめ、未来の社会に確かなグランドデザインを描くことに他なりません。

## 大日向 雅美（おおひなた・まさみ）

専門は発達女性学・ジェンダー論。主著に『母性の研究』川島書店1988年、「子育てと出会うとき」NHK出版1999年、『母性愛神話の罫』日本評論社2000年、『子育てがつらくなったとき読む本』PHP研究所2001年、「『子育て支援が親をダメにする』なんて言わせない」岩波書店2005年、「子どもを愛せなくなる母親の心がわかる本」講談社2007年など。



入場無料ですが、資料の準備のため、下記まで事前にお申し込みください。申し込みなしでもご参加いただけます。

申し込み先：恵泉女学園大学入試広報室 大学院講演会担当

Tel: 042-376-8217 Fax: 042-376-8604 eメール: nyushi@keisen.ac.jp

Fax、eメールの場合は、「大学院講演会申し込み」と明記の上、①出席希望講演会、②お名前、③所属、④連絡先、⑤参加者数をお知らせください。

<http://www.keisen.ac.jp/faculty/graduate/>